

教材の特徴である 3 人の登場人物の関係性を可視化した話合いを基に、自分との関わりで考えられるように三角形のポジショニングマップを活用した実践

I 学習指導案

- 1 主題名 はたらくときには C (13) 勤労、公共の精神
- 2 ねらい 働くときにはどんな思いが大切かを考え、進んでみんなのために働こうとする実践意欲を育てる。
- 3 教材名 三人の仕事 (光村図書 「きみがいちばんひかるとき」 3)
- 4 主題設定の理由 **児童の実態** **学習指導要領の内容** **教材を活用した学び方**

児童は、当番活動や清掃活動などにおいて、働くことの楽しさや喜びを味わいながら学校生活を送っている児童がいる一方で、働くことを負担に感じたり、面倒に思ったり、相手を気にしすぎるがあまり働く勇気や自信がなかったりする様子が見られることも増えてきた。身の回りの生活の中で、集団での一員としてできることについて考え、自分ができる仕事を見つけたり、集団生活の向上につながる活動に参加したりして、みんなのために働こうとする意欲や態度を育むことが重要になる。自分の役割を果たし、力を合わせて仕事をする大切さを理解できるようにするとともに進んで働こうとする実践意欲を養うことができるようにしたい。

5 展開

学習活動 ○基本発 ◎中心発問	・支援と留意点 *発問の意図 ☆評価の視点
<p>1. 働くことについてのアンケート結果を確認し、教材につなげる。</p> <p>○「働く」とは、どのような活動があるのでしょうか。</p> <p>○アンケート結果からみんなで考えていきたいことはありますか。</p>	<p>*「働く」とは対価を得る活動ではなく、自分のため、相手のために自分の役割を果たし、学校生活を円滑に進められるような取り組みであることをおさえる。</p> <p>・事前に「働くことは大切だと思いますか」「みんなのために働いている自信はありますか」というアンケート結果を児童と確認する。</p> <p>*このような結果になったのは、大切だと思っても負担に感じてしまったり、自分の仕事ぶりに自信がなかったりすることが考えられることを共有し、めあての設定へとつなげる。</p>
<p>はたらくときには、どのような気持ちが必要なのだろう。</p>	
<p>2. 教材「三人の仕事」を読み、感じたことを伝え合う。</p> <p>○登場人物のダニエル、セサル、マリオはどのような人物でしょう。</p>	<p>*積極的に行動に移すダニエルのような考えや行動することだけが働くというわけではなく、セサルのように知識で相手をサポートしたり、マリオのように環境を整えることに専念したりすることも立派な働くことであるということをおさえる。またその関係がとらえやすいように三角形のポジショニングマップを活用する。</p> <p>* 3 名のアプローチはそれぞれ異なるものの、</p>

<p>◎この三人はどんな思いをもって働いているのでしょうか。</p> <p>3 自分自身の生活について振り返る。 ○あなたの周りにも、素敵だと思う働き方をしている人はいますか。理由と合わせて紹介しましょう。</p> <p>4 本時を振り返る。 ○今日の学習を通して、これからどのように過ごしていきたいですか。</p>	<p>「みんなのことを考えている」「相手に対する思いやり」など共通している気持ちに気付けるようにし、学習問題と結びつけて考えられるようにする。</p> <p>*「三人の仕事」の登場人物をイメージし、自分や友達の働きぶりについて考えさせることで、実は様々な場面で学級や自分を支えていることに気が付けたい。また、自分もみんなのために貢献していることも合わせて感じさせながら、これからの実践意欲につなげていきたい。</p> <p>・教材内でも使用したポジショニングマップをGIGA 端末でも活用しながら、人によって感じ方が違っていたことを振り返る事で、見方が広がったことを実感できるようにする。</p> <p>☆学校での仕事に、自分はどう取り組み、周りからどう思われているのかを振り返っている。</p> <p>*働くうえで大切なことを理解し、その気持ちを生かせるように助言する。</p> <p>・振り返りノートを活用して、みんなのために働くことを意識できるよう、支援する。</p> <p>☆進んではたらくことの大切さを理解し、学校での仕事にどのように取り組んでいきたいのかを考えている。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6 本時の評価の視点（解説から抜粋）

<多面的・多角的な見方・考え方>

- ・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしていることに着目する。

<自己を見つめる>

- ・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目する。

7 板書計画（省略 授業記録参照）

II 授業記録

1 学校での自分の仕事について考える。

T: 学校でみなさんよくはたらいっていると思うのですが、普段どのような仕事をしているのですか。

C: 係、当番、掃除、給食当番。

C: 実行委員活動もあるし、高学年になると委員会活動もある。

T: そのような仕事について、どのように思い、活動しているのかアンケートを取りましたね。その結果を確認してみましょう。

T: まずは、「働くことは大切だと思いますか」という質問でしたが、何と全員が「大切だと思う」と思っていることが分かりました。素晴らしいですね。

T: 次に「学校での仕事について自信をもって働いていると言えますか」という質問の結果は自信をもって働いている人は25%くらい、4人に1人しかいないんですね。半分はそこまで自信がない、残りはあまり働いていないという結果でした。この結果を見てどう思いますか。

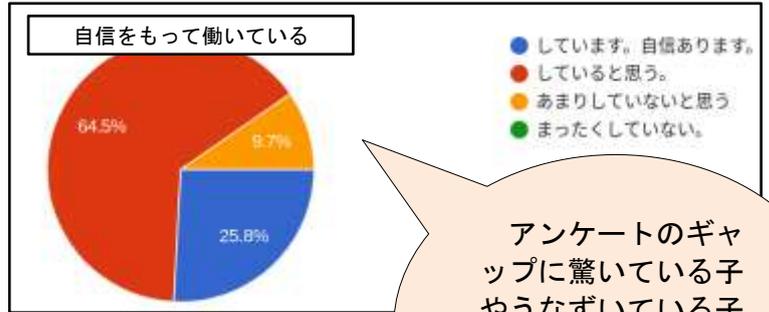
C: 大切だと思っはいるけど、実際はできていない人も多い。

C: だけど、頑張っはたらいている人も多いはず。自信がないのかな。

T: みんなのために働くことの大切さを改めて考えると、もっと行動に移せる人がいるかもしれませんね。

今日は「働くときに大切なことは？」ということを考え、もう一度、自分の活動を振り返ってみましょう。

「はたらくこと」の意識、考え方を確認するための発問。展開後段でも意識できるように声をかけた。



アンケートのギャップに驚いている子やうなずいている子もいた。自分事として考える手立てになっていた。

2 教材「3人の仕事」を読み、話し合う。

T: 3人はどのような人物ですか。

ダニエル

C: 力持ちで、進んで力仕事を引き受けてくれる人。

C: 自信をもって積極的に手伝いをしてくれる人。

セサル

C: よいアドバイスをしてくれる。

C: 頭がいい。物知り。

C: アイデアが豊富。

マリオ

C: 優しい

C: 気配りができる。

C: 思いやりがある。

T: それぞれに自分のよさを発揮しているんですね。

登場人物のよさや特徴を三角形のポジショニングマップを活用して確認することで、展開後段の話し合いにも応用できた。

「セサルは〇〇さんに似てるよ。」など学級の子のよさと重ねて考えられている児童もいた。

3人に共通している気持ちは何だと思えますか？

C: みんなのために自分が力になりたいという気持ち。

C: みんなを笑顔にしたいという気持ち。

C: 役に立ちたいという気持ち。

T: この教材を通して、皆さんと考えたい働くときに大切な気持ちがわかってきましたね。

3 自分たちの生活について振り返る。

T: この学級でもこの3人のように性格やできることが違うけれど、学級に貢献している人はいますよね。

T: これからグループになり、クラスの友達にはどんなよさがあって、どのように働いていたのか、話し合ってみましょう。

あるグループでの話し合い

C1: ○○さんはこの前、算数で分からないことがあったら教えてあげていたよ。とても上手に教えていたよね。セサルと似ている気がしたよ。

C2: C3さんは、配膳台の当番の仕事を一生懸命しているよね。いつもきれいに拭いていて、みんなのために頑張っているよね。ダニエルみたいに働くことを楽しんでいるみたい。

C3: それが当たり前だと思っていたけど。

C1: それって、すごいことだよ。僕はそこまでできる自信がないなあ。

グループでの話し合い後で

T: それでは、話し合ったことを発表しましょう。自分のGIGA端末の画面を見て、他のグループで聞いてみたい人はいませんか。

C4: 3班の○○さんの位置がダニエルと同じ位置で積極的に力仕事をしているところですが、それはどうしてか知りたいです。

T: それでは3班の皆さんの中で答えてくれる人はいますか。

C5: ○○さんは木曜日のごみ捨ての時間とき、重いごみ袋を△△さんが重そうにしているのを手伝って運んでいたからです。

C4: なるほど、分かりました。納得です。○○さんらしいと思いました。

(他数名にも聞いて、学校生活での仕事の頑張りなどを共有した)

意見の交流を通して、友達は自分のよさを生かして学級を支える仕事をしていることに気が付いている。



評価の視点

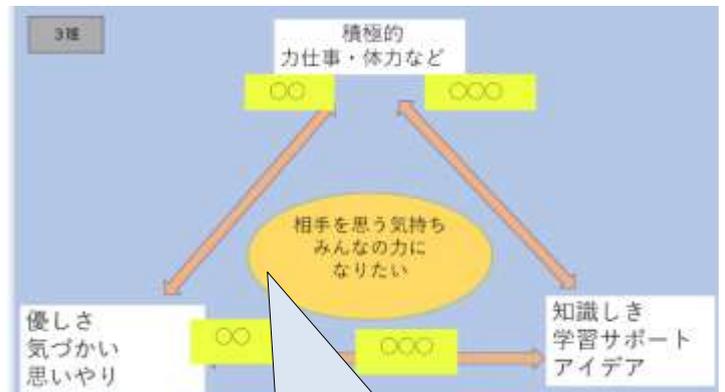
T: 話し合ってみてどうでしたか。今日の学習を通して、考えたことやこれから頑張りたいことを書きましょう。

ワークシートより

C: この学習を通して、みんな得意なことや才能をそれぞれもっていて、働いているということが分かりました。また、私のことをみんながどう思っているのかも知れたし、嬉しくなり自信になりました。

C: この学習をする前は、仕事はあまり出来ていないと思っていたけど、みんなと話して友達が私のいいところを見つけてほめてくれたので、少し自信がもてました。自信をもって当番活動などをがんばりたいです。他の友達のいいところにも気付いてよかったです。

導入で聞いた「仕事」と学校生活を結びつけて考えるように助言した。



事前にこのようなポジショニングマップを班ごとに用意し、話し合いをスムーズに行うことが出来るようにした。

他の班のスライドを移動させながら、気になる子に質問をし、その理由を聞いて納得していた子がほとんどだった。

- C: 今日の学習では、みんなそれぞれよさが違っていいなと思いました。私はみんなに優しくアイデアもよく浮かんでいるよねって言われました。だからこれからは机の整理整頓を頑張るだけじゃなくて、何か工夫をしてもっときれいに簡単に整頓して、みんなの心をすっきりさせたいです。
- C: 力などが特に必要な仕事があったとき、自分はその力には自信がないけど、みんなのためにやるという気持ちでマリオみたいにできることを探せば、仕事はしっかりできるということが分かりました。できないと諦めてしまっていた仕事もあったから、できそうなことはそのままやるけど、難しそうだったら、別なサポートをしたり友達に聞いたりしながら、みんなとっしょに仕事をがんばっていきたいです。

自分のよさを改めて感じ、これからも学校生活の中で自信をもって仕事をしていこうとする前向きな気持ちをもっている。



評価の視点

III 考察

(1) 自分自身についてより深く考えられるための手立て

① Googleスライドを活用した話し合いながらの学習

友達がどの立場でみんなのために活動していたか、またその理由をGoogle スライドを使うことで、スムーズな学習につなげることができた。付箋代わりにテキストボックスを移動させることによって、誰がどの考えに近いのかが一目で分かり、その理由も話しやすく問いやすくなった。その分、意見交流も積極的に行うことができた。また、考えの変容も簡単な操作で分かりやすく示すことができた。理由については自分の言葉で根拠を思い出しながら話すことができていた。

② ポジショニングマップの活用

教科書の登場人物を思考ツールを用いて理解を深め、話し合いの活用に生かすことができた。3人の相関図を指し示す三角形を思考ツールとして活用し、自分自身を振り返る話し合いの時間にも併用することで自分との関わりで考える手立てとなった。

(2) ねらいにせまるために

自分自身を振り返る話し合いでは、グループの友達のよいところを登場人物3人に当てはめながら考え、思いを伝える活動に取り組んだが、「働くときにはどんな思いが大切かを考え、進んでみんなのために働こうとする実践意欲を育てる」というねらいがぶれそうな児童も見られた。具体的な働いている場面ではない部分を思い出したり想定したりしたことを伝えている子もいたので、導入で指示した学校で働くという具体的な場面を想定させることが大切であると思った。「〇〇さんは挨拶がいつも元気だし、積極的だからダニエルに近いかな」や「〇〇さんは誰に対しても優しく声をかけているから、マリオに近いかな」など、どちらかという勤労、公共の精神よりも個性の伸長や親切、思いやりよりの考えに近い発言も見られたのでその価値を認めつつ、ねらいに向けた考え方ができるように声かけをすることが大切だと感じた。

IV 板書

